

令和8年度 厚別北小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：24512

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
成果	課題
◇課題の工夫により、自ら動き他者と協力して取り組む、主体的・対話的な学びの姿が見られた。また興味関心に寄り添う導入が意欲や理解に繋がった。 ◇1年間の異学年交流を通して、自治的な活動に向けたリーダーシップの取り方を学び、次年度の見通しが持てるようになった。	◇自分自身で問いを創出することに難しさを抱えていた。また、交流が形式化したことで、自分の考えを広げたり新たな価値に気付いたりする学びのよさへの実感が薄い。実態に即した授業の改善が必要である。 ◇自治的な活動の充実を図るための力を育てるために、学年や学級での話し合い活動の充実を図る必要がある。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の態度〉の現状と課題	
◇札幌市の共通指標「学習などについてのアンケート」で相互承認に関する項目について、「自分が必要とされていると感じる。」の項目が低い傾向にある（1～3年生 48.2%、4～6年生 27.9%）。授業においての友達との関わりにより、自分を肯定的に捉え、温かい人間関係を形成するとともに、失敗も含む本物の経験などの多様な学びの中で、相互承認の感度を高めていく。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付けられること

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	(1) 授業改善の重点「クラスの現在地を把握し、子どもに合わせた授業改善」に基づき、教職員が互いの授業を見合い、交流する機会を設定する。 (2) 単元内に、学習課題の解決に向けて、子どもが自己決定しながら自ら学びを進め、他者と協働することのよさや楽しさを実感できる場を意図的に位置づける。	◇「3つのあ」（あいさつ、あいて、あそび）を意識し、自分たちの生活をよりよくするための経験を積み重ねる。 (1) 挨拶から広がる子どものつながりを構築するとともに、挨拶運動への取組を継続していく。 (2) 全校集会や委員会を通して、異学年交流を実施する。 (3) 学年に応じて、よりよい学級や学年、学校づくりを目指して学級会で話し合い等、自分たちの願いの実現のために仲間と取り組む経験を大切にする。
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について		
◇主に課題探究的な学習の推進(2)や自治的な活動の充実(3)について、複数のツールの中から適当なものを、児童が自ら選択できるような環境を整備するとともに、各ツールの利点などの特色について事前指導の機会を設ける。 ◇全学年、系統立てた情報モラル教育を年2回は実施し、児童が適切にICTを使用できるようにする。 ◇パートナー校と交流を行い、連携して取り組んでいく。		

<本プログラムの実行に向けて>

